

令和4年度 第1回 研究評価委員会

開催日時

令和4年9月16日（金）13:30～16:30

1. 中間評価対象課題と評価結果

| | 進捗状況 | 得られた成果 | 目標達成の可能性 | 課題の取扱い | 合計 |
|---|------|--------|----------|--------|----|
| (1) アニマルウェルフェアに即した豚の飼養管理技術の検討 (R3～5 中小家畜研究課) | 4 | 3.5 | 3.5 | 4 | 15 |

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・日本におけるアニマルウェルフェアの考え方や位置づけは、生産者さらに消費者に対して広まりが弱い状況であることから、広める必要がある。
- ・価格が高くても安全・安心な生産物を購入する消費者は増えている印象がある。アニマルウェルフェアへの対応による生産コストの上昇を価格に転化して販売することは可能ではないかと考える。
- ・アニマルウェルフェアは国や地方自治体などの行政サイドで進めないといけないのではないかと。
- ・日本人がアニマルウェルフェアを求めているかどうか分からない。ヨーロッパに追随したアニマルウェルフェアを進めるのではなく、日本独自の考え方で進めていってはどうかと思う。

評価内容と点数

1. 進捗状況

- 5点：予定以上に進んでいる
- 4点：ほぼ予定どおりに進んでいる
- 2点：予定どおりに進んでいない
- 1点：ほとんど予定どおりには進んでいない

2. 得られた成果

- 5点：期待以上の成果が得られた
- 4点：ある程度の成果が得られた
- 2点：あまり成果が得られていない
- 1点：ほとんど成果が得られていない

3. 目標達成の可能性

- 5点：極めて可能性が高い
- 4点：可能性が高い
- 2点：可能性が低い
- 1点：ほとんど可能性がない

4. 課題の取り扱い

- 5点：飛躍的に取り組みを強める
- 4点：取り組みを強める
- 2点：取り組みを緩める
- 1点：むしろ中止すべきである

2. 令和4年度事前評価対象課題と評価結果

| 課題名 | 必要緊急性 | 新規独創性 | 達成の可能性 | 期待される成果 | 合計 |
|--|-------|-------|--------|---------|----|
| (1)乳牛の糞粒度分布を指標とした新たな 栄養管理技術の開発 (R5~7 大家畜研究課) | 4 | 4 | 4 | 4 | 16 |

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・ 農家自身で簡便にできる技術となれば、開発する意義がある。
- ・ 配合飼料が高騰していることから、無駄にやる餌を削減（コントロール）できるようになれば更に良いと考える。

評価内容と点数

1. 必要緊急性

- | | |
|----------------|-------------------|
| 5点：極めて緊急に必要である | 4点：緊急に必要である |
| 2点：緊急に必要ではない | 1点：ほとんど緊急でも必要でもない |

2. 新規独創性

- | | |
|------------------|-------------------|
| 5点：極めて新規性も独創性も高い | 4点：新規性も独創性も高い |
| 2点：新規性も独創性も低い | 1点：ほとんど新規性も独創性もない |

3. 目的達成の可能性

- | | |
|--------------|---------------|
| 5点：極めて可能性が高い | 4点：可能性が高い |
| 2点：可能性が低い | 1点：ほとんど可能性がない |

4. 期待される効果

- | | |
|--------------|---------------|
| 5点：大いに期待できる | 4点：ある程度期待できる |
| 2点：あまり期待できない | 1点：ほとんど期待できない |